

勉誠社

中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: 6e219b01cc

(期限: ~2024年12月28日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 6e219b01cc (期限: ~2024年12月28日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 送料
6,000円(税込)未満の購入 → 送料 600円
6,000円(税込)以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中古文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2023～2024年刊行分							
	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格	注文数
■事典・総記■							
新刊	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V. (おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ)・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22000	17,600	
	世界神話伝説大事典 (オンデマンド版)	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012	3080	2,500	
	書物学 第25巻 古典籍の文献学—鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2200	1,800	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723	2,200	1,800	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
	書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
■歴史・文化財・美術史・思想史■							
近刊	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/10	31019-8	8,800	7,000	
近刊	看聞日記とその時代—好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	藪部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,700	
近刊	荘園制再編と中世日本	小川弘和 著	2024/10	32057-9	8,800	7,000	
新刊	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400	
新刊	織田信長文書の世界—永青文庫 珠玉の六〇通	公益財団法人永青文庫・ 熊本大学 永青文庫研究センター 編	2024/09	32054-8	3,080	2,500	
新刊	増補改訂版 東インド会社とアジアの海賊	東洋文庫・斯波義信・平野健一郎・羽田正 監修／	2024/09	32056-2	3,520	2,800	
新刊	醍醐寺文化財研究所研究紀要 第24号	醍醐寺文化財研究所 編	2024/09	31302-1	2,750	2,200	
新刊	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/09	32050-0	8,800	7,000	
新刊	日本中世史論集	森茂暁 著	2024/09	32053-1	13200	10,600	
新刊	料理の日本史	五味文彦 著	2024/09	32045-6	2640	2,100	
新刊	ハナシ語りの民俗誌	川島秀一 著	2024/08	33006-6	3520	2,800	
新刊	開かれていた鎖国—入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8800	7,000	
新刊	新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	15,000	
新刊	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3080	2,500	
新刊	教育勅語—少年昭和天皇への進講録	杉浦重剛 著／所功 解説	2024/07	32051-7	1320	1,100	
新刊	広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・ 幕張本郷猛・御田鋏・毛利恵太 著	2024/07	32040-1	3,520	2,800	
新刊	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,300	
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
	近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
	永平廣録 大全—『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参考ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200	
	増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表／ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2640	2,100	
	古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／ 関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,300	
	三井大坂両替店の顧客信用情報—享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす —東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15400	12,300	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7700	6,200	
	器と信仰—東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16500	13,200	
	彰義隊士の手紙—続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22000	17,600	
	日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ!【重版出来!】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識 —十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開—東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
	物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝 (新コディコロジー研究会) 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	国宝「三十帖冊子」 修理から見てきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
	増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
	古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	

	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
	続々 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』巻十六～二十五（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,400	
	別冊 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・附録 雨夜燈（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,400	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・中野幸一・大橋正秋・岡本勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田基幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	日本人の読書—古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
	機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
	天地の間に己一人生きてありと思ふべし—熊沢蕃山「コスモポリテス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	4,000	
	古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
	大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
	野村太一郎の狂言入門	野村太一郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
	近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版）—継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
	地方史誌から世界史へ—比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
	霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
	江戸時代の貸本屋—庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
	鞆川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロツテ・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
	深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集—近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
	黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
	二一世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000	
	グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600	
	文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
	古代日本の儀礼と音楽・芸能—一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
	明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
	日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	
	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
	中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
■ 古典文学・文学史 ■							
近刊	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?—真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,300	
新刊	日本人にとって教養とはなにか—〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,100	
新刊	日本古典文学と中国の古伝承—物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
新刊	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,600	
新刊	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表／カストリ雑誌編集委員会 編	2024/06	39039-8	3,080	2,500	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
	ラテンアメリカ文学の出版文化史—作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16,500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8800	7,000	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2200	1,800	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3850	3,100	
	川端康成の曖昧な声—日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300	
	本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	本 かたちと文化（電子版）—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3080	2,500	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8800	7,000	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版）—未摘花／紅葉	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第三冊（オンデマンド版）—須磨／明石	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	2,200	
	中国古典文学に描かれた廁・井戸・簪（オンデマンド版）—民俗学的視	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
	俊頼髓脳全注釈	冢永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・舘野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」（神原本僚帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	

	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800	
	伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,000	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,200	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
	文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック (オンデマンド版)	小谷一明・巴山岳人・嵯峨正美・壹里具弓・ 喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	2,500	
■ 日本語学・言語学 ■							
	日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38005-4	3520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16500	13,200	
	楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
	方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
近刊	298 無住道暁の拓く鎌倉時代—中世兼学僧の思想と空間	土屋有里子 編	2024/10	32544-4	3,080	2,500	
近刊	297 廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600	
近刊	296 天文文化学の視点—星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,100	
新刊	295 蘇州版画—東アジア印刷芸術の革新と東西交流	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,800	
	294 秀吉の天下統一—奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,800	
	293 彷徨する宗教性と国民諸文化 —近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100	
	291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史 —前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雫雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波瀾剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
■ 図書館学・アーカイブ ■							
新刊	デジタル時代のコレクション論 (デジタルアーカイブ・ベーシック	中村覚・逢坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,100	
新刊	図書館員をめざす人へ 増補改訂版	後藤敏行 著	2024/10	30014-4	2,640	2,100	
	ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起 (デジタルアーカイブ・ベーシック)	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,800	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】 (オンデ マンド版)	E Orna & Ch. Pettitt 著/安澤秀一 監 修/水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,100	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,800	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800	

後藤昭雄 [著]

(ことう)あきお 大阪大学名誉教授。専門は日本漢文学。
主要著書に、『平安朝漢文学論考』(桜楓社、一九八二年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』(共校注、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学の研究』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本古代漢文学与中国文学』(日本中国学文庫、中華書局、二〇〇六年)、『大江匡衡』(人物叢書、吉川弘文館、二〇〇六年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇〇二年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇〇二年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇一七年)など。

平安朝詩文論集

平安朝において漢詩文は、学問の中心として大きな位置を占めていた。国家儀礼はもとより、官吏登用試験、公的な宴の場や歴史書編纂、さらには宗教の場などにおいても、漢学の素養の有無がそこに関わる人物の評価に大きく関わるものであった。平安朝の文人たちが残した漢文資料の一字一文字と真摯に向き合い、内容を読解。彼らの学問環境、史的位置づけと重ね合わせることで、平安朝の漢詩文をめぐる歴史的状况を明らかにする。長年に亘って平安朝の漢文学研究に携わってきた著者の最新論文集。

「目次」

はじめに

一 文学史研究

- 1 平安朝における『孝経』の受容
- 2 平安朝人は『後漢書』をいかに読んだか
——吉川忠夫訓注『後漢書』第一冊を読んで
- 3 中国へ伝えられた日本人の著作——淡海三船の『大乘起信論注』
- 4 淡海三船「南山の智上人に贈る」詩について
- 5 「銅雀台」——勅撰三集の楽府と艶情
- 6 嵯峨朝における「新楽府」受容について
- 7 日唐間における経典の往還——『千手儀軌』の伝流
- 8 仁明朝の官廷文学と東アジア
桜の文学小史
- 9 菅原是善の願文と王勃の文章
- 10 延喜二十二年大宰府返牒考
- 11 『言泉集』所引の平安中期願文資料
- 12 尚歯会と書と絵
- 13 平安朝における白居易「劉白唱和集解」の受容
- 14 大江匡衡と「文選」
- 15 呉越と平安朝の漢学
- 16 『本朝文粹』の文人——上位入集者とその作品
- 17 『本朝文粹』の一首の詩序と『明衡往来』の一通の書状
- 18 白居易「論友詩」の本文——我が国に残る古写本
- 19

二 文人伝研究

- 20 『経国集』の作者序論
- 21 空海の周辺——勅撰詩集作者との交渉
- 22 勅撰三集の詩と歴史学
- 23 『扶桑集』の詩人
- 24 文人たちの交友——藤原行成を軸として
- 25 源為憲と藤原有国の交渉について
- 26 創り出された平安朝詩人——『本朝一人一首』の過誤
- 27 【付載】
- 28 史料所載平安朝詩題索引
- 29 あとがき
- 30 索引

定価 二二、一〇〇円(本体二〇、〇〇円)

A5判・上製・五二八頁

二〇二四年八月刊行

ISBN978-4-585-39043-5 C3090

書名	部数
平安朝詩文論集 後藤昭雄 [著]	部
定価 13,200円(本体12,000円) A5判・上製カバー装・528頁 ISBN978-4-585-39043-5 C3090 2024年8月刊行	
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

日本古典文学と 中国の古伝承

物語形成の
比較文学的考察

定価 11,000 円
(本体 10,000 円)

A5判上製カバー装・344頁
ISBN 978-4-585-39042-8 C3095
2024年9月刊行

『古事記』『竹取物語』『うつほ物語』『伊勢物語』などの
史書や物語、さらには説話集や唱導、説経など

日本古典文学に登場する様々な物語には、

孝子譚(儒教の重要な徳目である親孝行に関する説話)や

韓朋譚(横暴な皇帝に苦しめられる夫婦の悲恋の物語)などの

中国の古伝承の影響を認めることができる。

これら中国の古伝承は、早く奈良時代には日本に伝来し、

日本人にも旧知の物語となっていた。

日本古典文学において新たな物語が創造される際に、

これら旧知の物語はいかなる影響を与えたのか――。

東アジア諸地域の資料を博捜し、比較文学的視点より

日本古典文学と中国の古伝承の影響関係を追及、

物語形成の局面を描き出す。

三木雅博 [著]

(みき・まさひろ)

大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。梅花女子大学文化表現学部日本文学専任教授。博士(文学)。梅花女子大学教授。専門は日中比較文学・平安朝漢文学。主な著書に『平安朝漢文学鈎沈』(和泉書院、二〇一七年)、『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院、一九九九年)、『和漢朗詠集とその享受増訂新版』(勉誠出版、二〇二二年)などがある。

「目次」

はしがき

I 日本古典文学と中国孝子譚

- 1 日本古典文学と中国孝子譚——本書への導入——
- 2 〈忠と孝との聞き合〉と中国孝子譚——『経国集』対策文から平家・近松へ——

II 「竹取」をめぐる中国孝子譚——原毅譚・董永譚——

- 1 「竹取翁歌」臆解——現存の作品形態にもとづく主題の考察——
- 2 「竹取物語」と孝子董永譚——日中天女降臨譚における「竹取物語」位置づけの試み——

附 「斑竹姑娘」と「竹取物語」——天女降臨譚の先祖返り——

III 〈継子いじめ〉の物語と中国孝子譚——舜譚・伯奇譚——

- 1 説経「しんとく丸」あじこの若の成立と中国伝来の〈継子いじめ譚〉——クナラ太子譚と舜譚・伯奇譚の接合による——

——物語形成の可能性について——

- 2 「うつほ物語」忠その継子いじめ譚の位相——「孝子伝」の伯奇譚・クナラ太子譚との比較考察から——

- 3 〈継子いじめ〉の物語と中国文学——「うつほ」忠その継子いじめ譚の位相——

- 4 古典文学における〈継子いじめ譚〉の展開と漢土の文学——比較から見えてきた流れ——

附 漢語「人子」と和語「人の子」

——古代日本における〈孝〉に関わる漢語の享受をめぐる——

IV 日本古典文学と中国の古伝承——物語形成の諸相——

- 1 古代浦島説話における「玉手箱」開箱と韓朋譚——中国尉犁県出土「韓朋賦」断簡ベトナム瑶族民間古籍「韓朋伝」に見える開箱の記述との比較考察——

- 2 「伊勢物語」梓弓章段と韓朋譚——「弓矢の」血書に込められた女の誠心——

- 3 説経「をぐり」の餓鬼阿弥蘇生譚と元曲「鉄拐李」——説経の物語形成方法に関する試論——

あとがき

著者主要著述目録

索引(書名・作品名/人名/事項/引用研究文献)

書名	部数
日本古典文学と中国の古伝承 物語形成の比較文学的考察 三木雅博 [著]	部
定価 11,000 円(本体 10,000 円) A5判上製カバー装・344頁 ISBN 978-4-585-39042-8 C3095 2024年9月刊行	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

日本人は漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

湯沢質幸 [著]

日本において古代から現在に至るまで延々と読み継がれてきた漢文。その読み方には中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、そして、平安時代に生まれ、漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の二種類が存在する。しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか——漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

目次

本書の目的

凡例

第一章 直読と訓読

——現代と平安時代——

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

——『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』——

第三章 〈直読から訓読へ〉

——直読の衰退——

第四章 平安時代の訓読

——『白氏文集』——

第五章 『宇津保物語』併存の再検討

第六章 平安時代儒学界と直読

第七章 儒学界と仏教界

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語

参考文献

後記

執筆者紹介

(ゆざわ・ただゆき)一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。東京教育大学文学研究科修士課程修了。博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山形大学、筑波大学、京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七年)、『日本漢字音史論考』(勉誠社、一九九六年)、『古代日本人と外国語』(同)『増補改訂』(勉誠出版、二〇一一年)、『音声・音韻探求法』(松崎寛と共著、朝倉書店、二〇〇四年)、『近世儒学韻学と唐音』(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本でどう生きてきたか』(開拓社、二〇一七年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-38006-1 C1081
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
定価 3,520 円(本体 3,200 円) 四六判・並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-38006-1 C1081 2024年5月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

稲本万里子 〈編著〉

恵泉女学園大学教授。専門は日本美術史。著書に『源氏絵の系譜―平安時代から現代まで』（森活社、二〇一八）、論文に「幻の『源氏物語絵巻』の制作背景再考」（恵泉女学園大学紀要二九、二〇一七）、「若紫巻の源氏絵」（河添房江・松本大編『源氏物語を読むための25章』武蔵野書院、二〇二三）などがある。

源氏絵研究の最前線



『源氏物語』を絵画化した作品である源氏絵は、平安時代から現代に至るまで数多く制作された。これらは、歴史上、天皇や公家、武家、あるいは寺院の僧侶たちの私的な空間を彩る絵であったため、彼らの生活を知るためには、欠くことのできない作品である。そして、その制作には土佐派や狩野派などさまざまな流派が関わり、流派を超えた同時代の潮流や、あるいは時代を超えた流派ごとの様式展開を知るための重要な事例でもある。

絵巻や扇、画帖、屏風など、さまざまな形で残されてきた作品を、美術史、建築史、日本文学などの知見より時代別に考察。

さらには、AIやVRなどを駆使した最先端の研究や展示方法に関する最新成果も収載。

日本古典文化の中心にある『源氏物語』の絵画の世界を多角的視点から解剖した必備の一冊。

図版点数三六〇点超！

第一部 源氏絵の諸相

- 第一章…平安時代
- 第二章…室町時代
- 第三章…桃山・江戸時代
- 第四章…源氏絵の拡がり

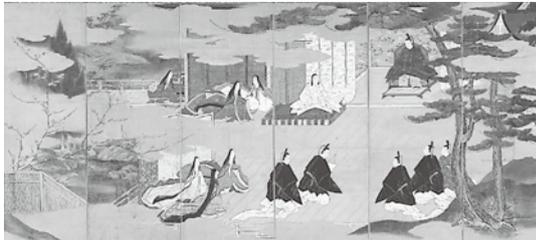
第二部 AIとVR

- 第一章…デジタル画像
- 第二章…AI
- 第三章…VR

- 四辻秀紀 龍澤 彩 青木慎一
- 鷺頭 桂 三宅秀和 赤澤真理
- 片桐弥生 本田光子
- 高岸 輝 水野裕史

- 鴨木年泰 Xiaoran Hu
- 鈴木親彦 津野駿幸
- 加藤拓也 横田優治
- 小長谷明彦 小倉絵里子

表裏面●詳細目次



定価 14,300円・本体13,000円
A5判上製カバー装・488頁
202410月刊行
ISBN978-4-585-37016-1 C3071

書名

源氏絵研究の最前線
稲本万里子〈編著〉

定価 14,300円・本体13,000円
A5判上製カバー装・488頁
202410月刊行
ISBN978-4-585-37016-1 C3071

冊数

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

序言◎稲本万里子

第一部 源氏絵の諸相

第一章 平安時代

国宝源氏物語絵巻の保存と修理の過程◎四辻秀紀

第二章 室町時代

集められた扇絵——九州国立博物館所蔵「扇面画帖」の裏面からわかること◎鷺頭 桂

九州国立博物館蔵「扇面画帖」中の源氏絵扇面について——制作年代と筆者の問題を中心に◎片桐弥生

源氏絵の中世から近世へ——ハーバード大学美術館所蔵「源氏物語画帖」と土佐光信の構図◎高岸 輝

第三章 桃山・江戸時代

永徳期・光信期狩野派の源氏絵への挑戦——皇居三の丸尚蔵館所蔵の源氏物語図屏風を中心に◎三宅秀和

東京富士美術館所蔵の源氏物語図屏風について——狩野光信様式の源氏絵として◎三宅秀和

土佐光則筆「源氏物語画帖」(任天堂株式会社蔵)の特色と位置づけ——場面選択と図様からの検討◎片桐弥生

土佐光起の源氏絵図様——正当性と新規性◎本田光子

伝土佐光起「土佐派色紙絵付源氏物語」(永青文庫蔵)◎水野裕史

土佐派系工房による二つの源氏絵——「源氏物語画帖」(長崎・個人蔵)と「源氏物語団扇画帖」(国文学研究資料館蔵)◎本田光子

第四章 源氏絵の拡がり

源氏絵の鷹狩描写から鷹狩図へ——小品画から大画面への転換◎水野裕史

幻の「源氏物語絵巻」の詞書本文について——賢木第一巻の検討から◎青木慎一

建築史の中の「源氏物語」——同時代の住宅像と考証学のあいだ◎赤澤真理

近世源氏物語絵が描こうとした王朝の世界——住吉具慶筆「源氏物語絵巻」(MIHO MUSEUM蔵)にみる貴族住宅・浴外・遊興の表現を通して◎赤澤真理

第二部 AIとVR

第一章 デジタル画像

公開と非公開の狭間、作品画像のオープン化をめぐる諸課題と最新動向——ジャパンサーチの活用によって期待される新しい展開◎鴨木年泰

III. Curaton Platformが美術史にもたらす「細部」と「再現性」——絵入本・絵巻の作品比較を事例に◎鈴木親彦

第二章 AI

深層学習による幻の「源氏物語絵巻」の流派推定に関する考察——AI技術による「絵師の流派」概念の再構築◎稲本万里子・加藤拓也・小長谷明彦

流派推定の思考回路——深層学習による幻の「源氏物語絵巻」と岩佐派の源氏絵の分類結果を手がかりに◎稲本万里子

深層学習によるくずし字の認識——「源氏物語絵巻」桐壺巻の詞書への検証◎小長谷明彦・Xiaoran Hu・稲本万里子

第三章 VR

東京富士美術館が取り組んできたデジタル鑑賞ツール事例紹介——みどころルーペ、名画ナビゲーション・システム、VR鹿秋草時絵硯箱、VR源氏物語図屏風◎鴨木年泰

灯明の炎と金箔の反射を再現する「VR源氏物語図屏風」の美術展示作品としての価値創造に関する考察◎小長谷明彦・津野駿幸・稲本万里子

「源氏物語」の世界のVR化——VR球面上での遠近表現における樹木と金雲の有用性について◎小長谷明彦・横田優治・稲本万里子

源氏絵データベース研究会のあゆみ◎小倉絵里子

あとがき◎稲本万里子

初出一覧

「カラー口絵に掲載した源氏絵」

- 1 徳川美術館蔵「源氏物語絵巻」柏木三
- 2 九州国立博物館蔵「扇面画帖」揚弓図
- 3 九州国立博物館蔵「扇面画帖」紅梅・若菜下
- 4 ハーバード大学美術館蔵「源氏物語画帖」玉鬘
- 5 ハーバード大学美術館蔵「源氏物語画帖」滯標
- 6 毛利博物館蔵「源氏物語絵巻」御法
- 7 東京富士美術館蔵「源氏物語図屏風」桐壺・胡蝶
- 8 永青文庫蔵「土佐派色紙絵付源氏物語」桐壺・末摘花
- 9 個人蔵「源氏物語画帖」帚木
- 10 国文学研究資料館蔵「源氏物語団扇画帖」東屋
- 11 メトロポリタン美術館蔵「源氏物語絵巻」賢木

清少納言伝

中宮定子讃仰と鎮魂の生涯 (仮)

上原作和 [著]

謎多き才女の実像に迫る本格評伝

清少納言はなぜ『枕草子』を書いたのか。

中宮定子への忠誠心とはいかなるものだったのか。

紫式部とは仲が悪かったのか。

多彩な史料・文献を駆使して、幼少時代、恋愛と結婚、宮廷生活、

長徳の変の伊周と高階明順の逃亡への関与、

晩年の隠棲地のほか、

『枕草子』の成立と享受について14の新見解を提示し、

その波乱に満ちた生涯と人物像に迫る。

和歌・漢文日記等に読みやすい現代語訳、

専門用語に注記を付した。

14の新見解

- ・紫式部との関係は険悪というほどではなかったことを確認
- ・清少納言の家は、同母兄清原致信の住む「六角福小路」にあったと特定
- ・長徳の変の藤原伊周と高階明順の逃亡に関して関与していると推定
- ・多情多恨、奔放な異性関係を持っていたことを指摘…など。

◎著者プロフィール

上原作和 (うえはら さくかず)

一九六二年長野県佐久市生まれ。大東文化大学大学院博士課程単位取得退学。博士(文学、名古屋大学)。現在、桃源文庫理事。明治大学法学部兼任講師。主な研究テーマは文献史学、日本琴學史、物語文学。著書に『光源氏物語の思想的変貌——「琴」のゆくへ』(有精堂出版、一九九四年)、『光源氏物語琴學史——右書左琴の思想』(翰林書房、二〇〇六年)、『光源氏物語傳來史』(武蔵野書院、二〇一一年)、『共編著』『人物で読む源氏物語』全二〇巻(勉誠出版、二〇〇五、二〇〇六年)、『完訳太平記』全四巻(勉誠出版、二〇〇七年)、『テーマで読む源氏物語論』(三卷)(勉誠出版、二〇〇八年)、『日本琴學史』(勉誠出版、二〇一六年)、『古典文学の常識を疑う』(勉誠出版、二〇一七年)、『古典文学の常識を疑うII』(勉誠出版、二〇一九年)、『紫式部伝——平安王朝百年を見つめた生涯』(勉誠社、二〇二三年)などがある。

◎目次

はじめに

第一章 なぜ清少納言は『枕草子』を書いたのか

第二章 『枕草子』受容の前近代と近代

第三章 清少納言前史

第四章 中関白家の栄光と長徳の変

第五章 清少納言の家系とその周辺

第六章 枇杷殿時代——紫式部と対峙する

第七章 清少納言の同母兄・清原致信暗殺事件

第八章 『無名草子』の清少納言伝承と伝能因所持本の成立

第九章 清少納言伝における「つぎのわ」

第十章 清少納言の末裔 「小馬がさうし」の読者圏

附篇一 枕草子絵詞

附篇二 冷泉家本『清少納言集』訳注

「コラム」在原業平遠近宮と武蔵野の文学

自跋

附録

「資料」瓢箪から駒(野間光辰)

「清少納言伝」を読むための人物誌

女房一覧

枕草子年表

予価五、九四〇円

(本体五、四〇〇円)

二〇二四年十月刊行

A5判並製カバー装・四一六頁予定

ISBN978-4-585-39046-6 C1095



書名	部数
清少納言伝 中宮定子讃仰と鎮魂の生涯 (仮) 上原作和 [著]	部
予価 5,940円(本体 5,400円) A5判・並製カバー装・416頁予定 ISBN978-4-585-39046-6 C1095 2024年10月刊行	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

看聞日記と

かんもんにつき

その時代



《上杉本洛中洛外図屏風》
「念仏踊り」

好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会

はじめに

解説◎伏見宮貞成と『看聞日記』

現代語・抄訳で楽しむ『看聞日記』

一―中世の領主 二―宗教と芸能

三―村人と習俗 四―怪異と霊力

五―中世の合戦と犯罪 六―動物

おわりに

看聞日記・伏見宮貞成関係文献目録

伏見宮貞成略年譜



- 一・中世の領主――内裏の防火と称光天皇◎貴族が経営する旅館◎伏見宮家女房の逃亡◎足利義教による暗殺指令…ほか
- 二・宗教と芸能――闘茶とその賞品◎遍歴の芸人◎和歌論争◎桂地蔵の信仰◎足利義持の東大寺大仏彩色修理◎室町時代の即身仏…ほか
- 三・村人と習俗――念仏とお囃子の仮装行列◎貧乏公家をバカにした狂言◎ある村人の死◎屏風を逆さまに立てるといふこと…ほか
- 四・怪異と霊力◎カメの小便の漢方薬◎京の化け狸◎怪異「犬の小便」◎足利義教をうらむ怨霊が義勝を呪い殺す…ほか
- 五・中世の合戦と犯罪――中国・南蛮・朝鮮が日本に攻めてくるというウワサ◎学問僧の犯罪◎二つの水攻め…ほか
- 六・動物――飼猫が犬に噛み殺される◎人間の言葉をしゃべる馬◎將軍足利義教、小人に会う◎百足は御福である…ほか

室町期皇族が記録した奇想天外な中世社会の実像

室町時代史研究における第一級史料『看聞日記』。その日記には貧乏な皇族・伏見宮貞成が京都近郊の村落・伏見に移り住んで見聞きした中世社会のありようが事細かに記録されている。將軍足利義教が暗殺された嘉吉の乱の内幕、僧侶の犯罪、猿楽の鑑賞や酒宴、怪異や怨霊と陰陽師の活躍など――。三十二年分の日記のなかから、政治・思想・社会・文化・習俗に関する興味深いエピソードを選出。読みやすい現代語訳とわかりやすい解説で楽しむ一冊

日記とは？
看聞日記とは？

室町時代の日記。後花園天皇の実父にあたる伏見宮貞成親王（一三七二―一四五六。伏見宮三代）による。室町幕府第六代將軍の足利義教が暗殺された「嘉吉の乱」など、中世社会の政治・思想・社会・文化・習俗など多岐に渡る事柄を詳細に記録。日記四巻と御幸記、別記、目録の全四四巻から成る。応永二十三年（一四一六）から三十二年分の記録が残されている。

蘭部寿樹

著

（そのべ・としき）一九五八年東京都生まれ。筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻単位取得退学。博士（文学）。現在は山形県立米沢女子短期大学名誉教授。中央大学文学部兼任講師。主書に『中世村落と名主座の研究―村落内身分の地域分布』（高志書院二〇一一年）『日本中世村落文書の研究』（小笠子社二〇一八年）など多数。

定価4,620円・本体4,200円
四六判並製カバー装・344頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32059-3 C1021

書名	冊数
看聞日記とその時代 好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会 蘭部寿樹〈著〉	冊
定価4,620円・本体4,200円 四六判並製カバー装・344頁 2024年10月刊行 ISBN978-4-585-32059-3 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025

廃墟

木下華子
山本聡美
渡邊裕美子

編

の文化史



「廃墟」とは何か

近代産業遺産、廃業した遊園地やホテル、廃村や廃校など、現代において「廃墟」はたびたびブームとなり、人々の心を強く惹きつける。そしてひとたび、古典の世界に目を向ければ、古都や古代寺院の遺構、絵画・記録・物語や伝承などに遺された荒廃した町並みや建造物など、さまざまな廃墟表象が見いだせる。「廃墟」はなぜ描かれ、語り継がれたのか。そこにはどのようなイメージ、意図が込められていたのか。人々は「廃墟」に何を託したのか。

これまであまり考察されることのなかった、日本の廃墟表象を捉え直し、文学・美術・芸能など様々な視点から、古代以来連綿と人々が廃墟と共存した様相や、廃墟が文化の再生・胚胎を可能とする機能的な場であることを明らかにする。日本の歴史・文化史に立脚した廃墟をめぐる新たな視座を提供する挑戦。

編者略歴

木下華子◎東京大学大学院人文社会系
研究科准教授。専門は日本文学。
山本聡美◎早稲田大学教授。専門は
日本古代。中世絵画史(仏教説話画)。
渡邊裕美子◎立正大学文学部教授。
専門は和歌文学・中世文学。

カラー口絵
巻頭言 わたしたちの廃墟論へ◎渡邊裕美子

第1部 廃墟論の射程

「廃墟」の創造性——歌枕・紀行文・「方丈記」◎木下華子
『うつほ物語』の廃墟的な場——三条京極の俊蔭邸と蔵の意義◎陣野英則
廃墟に花を咲かせる——『忍夜恋曲者』の方法◎矢内賢二
西洋美術史における廃墟表象
——人はなぜ廃墟に惹きつけられるのか?◎平泉千枝
【コラム】前近代中国における廃墟イメージ
——読碑図・看碑図・訪碑図など◎板倉聖哲
言葉としての「廃墟」——戦後文学の時空◎藤田佑

第2部 廃墟の時空

廃墟と霊場——闇から現れるものたち◎佐藤弘夫
廃墟と詠歌——遍照寺をめぐる◎渡邊裕美子
夢幻能と廃墟の表象
——世阿弥作《融》における河原院描写に注目して◎山中玲子
【コラム】生きた廃墟としての朽木——風景・記憶・木の精◎ハルオシラネ
廃墟に棲まう女たち——朽ちてゆく建築と身体◎山本聡美
廃墟になじめない旅人——永井荷風「祭の夜がたり」◎多田蔵人
【コラム】韓国文学における廃墟◎嚴仁卿
【コラム】西洋美術史から見た日本における廃墟とやつれの美◎佐藤直樹

第3部 廃墟と生きる

【コラム】荒れたる都◎三浦佑之
承久の乱後の京都と「承久三、四年日次記」◎長村祥知
廃墟の中の即位礼——中世の即位図からみえるもの◎久水俊和
五山文学における廃墟の表象◎堀川貴司
戦争画家たち——それぞれの「敗戦」◎河田明久
廃墟としての金沢文庫——特別展「廃墟とイメージ」の記録◎梅沢恵

あとがき◎木下華子

定価3,300円・本体3,000円
A5判並製カバー装・288頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32543-7 C1391
〈アジア遊学 No.297〉

定価3,300円・本体3,000円
A5判並製カバー装・288頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32543-7 C1391
〈アジア遊学 No.297〉

書名

廃墟の文化史

木下華子・山本聡美・渡邊裕美子(編)

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025

無住道暁の拓く 鎌倉時代

土屋有里子〈編〉

(つちや・ゆりこ)
学習院女子大学国際文化
交流学部教授。専門は日
本中世文学、説話文学。

中世兼学僧の 思想と空間

無住道暁

むじゅうどうぎょう

1226～1312

鎌倉後期の
通世僧

無住の目を通して語られる、
鎌倉時代の諸相

『沙石集』、『雑談集』などの説話集編者として知られる無住道暁。

近年、無住の修学面に関する新資料が公になり、その研究も大きく飛躍しているが、
彼自身の人生を諸分野から概観する書籍はない。

彼はいつどこで誰に会い、どのような教えを受け、何を選択したのか。

鎌倉時代を代表する説話集は、無住のいかなる人生を投影して作られたのか。

無住が生きた土地・場、各地での僧侶間ネットワークに着目し、

宗教者としての内実を読み解くと同時に、無住をとりまく文芸活動を考察。

鎌倉幕府や北条氏にも高い関心を寄せた無住の修学・文学を、彼の人生の流れに沿ってとらえ直す。

序文……土屋有里子

第一部……修学と環境をめぐる——東国・尾張・京

常陸の宗教世界と無住●龜山純生

無住と法身房●土屋有里子

無住と鎌倉——鎌倉の仏教関係説話を中心に●追塩千尋

尾張長母寺住持無住と地域の人々●山田邦明

無住にとつての尾張——地方在住僧の帰属意識●三好俊徳

無住と伊勢神宮——『沙石集』巻第一一話「大神宮御事」をめぐる●伊藤聡

巴爾述「逸題無住問書」と無住●和田有希子

『沙石集』における解脱房貞慶の役割から聖一国師への道

——無住が捉えた貞慶の伝承像とその文脈

——巴爾と交錯する中世仏教の展開●阿部泰郎

第二部……無住と文芸活動——説話集編者の周辺

ふたつの鼓動——『沙石集』と『私聚百因縁集』をつなぐもの●加美甲多

『雑談集』巻五にみえる呪願●高橋悠介

梶原伝承と尾張万歳●土屋有里子

無住と南宋代成立典籍・補遺●小林直樹

無住の和歌陀羅尼観——『沙石集』諸本から変遷をたどる●平野多恵

「無住と『法華経』法華経読誦」●柴佳世乃

定価 3,080円・本体2,800円

A5判並製カバー装・216頁

2024年10月刊行

ISBN978-4-585-32544-4 C1391

〈アジア遊学 No.298〉

書名	冊数
無住道暁の拓く鎌倉時代 中世兼学僧の思想と空間 土屋有里子〈編〉	冊
定価 3,080円・本体2,800円 A5判並製カバー装・216頁 2024年10月刊行 ISBN978-4-585-32544-4 C1391 〈アジア遊学 No.298〉	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

天文文化化学

天文現象は古代より人々の生活や文化活動に密接に関わり、文学や美術に広く取り入れられるとともに、現代科学の発端ともなった。古典籍・美術品・工芸品・遺跡・数式等の中には、天文に関わる多様な表現がみられ、それらはさまざまな角度から考察することができよう。

銅鏡の文様に見られる古代中国の宇宙観とは？
浦島太郎のタイムトラベルの理論物理学的な可能性とは？
一条兼良はどのような星空を見ていたのか？
沖繩に伝わる神歌に歌われた星に、人々は何を託していたのか？

絵画・文学作品・信仰・思想・民俗・実際の天体現象など、様々な視点から、文化史と科学論を統合して自然観を考察する。細分化され過ぎた現在の学問を新たに捉え直し、総体としての知を確立する挑戦！

松浦清・真貝寿明 編

大阪工業大学工学部教授・常務歴史館館長、専門は仏教美術史、星學茶室を中心とする星辰絵画
大阪工業大学情報科学部教授、専門は理論物理学、天文文化学



星を軸に 文化を語る



序……「天文文化学」という複合領域を楽しむために◎松浦清

I……絵画・文学作品にみる天文文化
原在明〈山上月食図〉個人蔵の画題について◎松浦清
一条兼良がみた星空——「花鳥余情」における「彗星」「天狗星」注をめぐって◎横山恵理
「軌道」の語史——江戸時代末以降を中心に◎米田達郎
「コラム」星の美を詠む◎横山恵理
「コラム」明治初頭の啓蒙書ブーム「窮理熱」と「滑稽窮理譚の西国」◎真貝寿明

II……信仰・思想にみる天文文化
銅鏡の文様に見られる古代中国の宇宙観——記紀神話への受容とからめて◎西村昌能
天の河の機能としての二重性——境界と通路、死と復活・生成、敵対と恋愛の舞台◎勝俣隆
南方熊楠のミクロコスモスとマクロコスモス——南方曼荼羅の世界観◎井村誠
「コラム」天文学者は星を知らない◎真貝寿明

III……民俗にみる天文文化
奄美与論島における十五夜の盗みの現代的变化をめぐる一考察◎澤田幸輝
「コラム」三日月の傾きと農業予測——鹿児島県与論島のマクマを事例に◎澤田幸輝
天文文化学から与那覇勢頭豊見親の「り」を考える◎北尾浩一

IV……中世以前の天体現象と天文文化
天命思想の受容による飛鳥時代の変革——北極星による古代の正方位測量法◎竹迫忍
惑星集合と中国古代王朝の開始年についての考察◎作花 志
「コラム」星の数、銀河の数◎真貝寿明
丹後に伝わる浦島伝説とそのタイムトラベルの検討◎真貝寿明

V……近世以降の天体現象と天文文化
1861年テベット彗星の位置測量精度——土御門家と問家の測量比較を中心に◎北井礼三郎・玉澤春史・岩橋清美
日本に伝わった古世界地図と星図の系譜◎真貝寿明
あとがき……天文文化学を進める上で見てきたもの——理系出身者の視点から◎真貝寿明

定価 3,850円・本体 3,500円
A5判並製カバー装・312頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32542-0 C1344
〈アジア遊学 No.296〉

書名	冊数
天文文化学の視点 星を軸に文化を語る 松浦清・真貝寿明(編)	定価 3,850円・本体 3,500円 A5判並製カバー装・312頁 2024年10月刊行 ISBN978-4-585-32542-0 C1344 〈アジア遊学 No.296〉
ご送付先ご住所(通信欄)	



鎌倉幕府の文学論は 成立可能か!?

真名本『曾我物語』テキスト論

「歴史」か 「物語」か？

武士団の世界観、東国ならではの恣物語、縁起や唱導の言葉の引用、頼朝と曾我兄弟の弟・五郎との熾烈な言葉の応酬などの言語的実験…

中世東国のなんたるかを如実に体現した
範例的・普遍的テキストであると言える真名本『曾我物語』
そしてなによりも「歴史テキスト」としての
自らを押し出したのが真名本という物語ではないのか。

一方、真名本と同じ事件を取材しながらも、
まったくの反対方向を志向している『吾妻鏡』。

幕府の公的年代記であるがゆえに『曾我物語』よりも、
史料の価値が高く見積もられている『吾妻鏡』であるが、
果たしてその優位性は正しいのか。

歴史テキストを歴史たらしめる言葉の構造とは何なのか。
真名本『曾我物語』と『吾妻鏡』という二つの作品の関係論、
また『金槐和歌集』や『新古今和歌集』、『神道集』、『太平記』など
さまざまなテキストを比較することにより、

鎌倉時代における文学の言語空間について考察する。

本書の問題設定と方法論

序 章・鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?

第I部……「法」と自爆テロ

第1章・真名本『曾我物語』入門

第2章・曾我御霊神の誕生

第3章・大将軍源頼朝の誕生

第4章・鎌倉幕府創世神話

第5章・補遺・東国テキストの表現構造

第II部……歴史への欲望

第6章・真名本『曾我物語』という歴史テキスト
閑話休題・平安朝物語文学と真名本『曾我物語』

第7章・『吾妻鏡』／真名本『曾我物語』

第III部……真名本『曾我物語』とその周縁

第8章・「曾我語り」「唱導」の問題

第9章・仮名本『曾我物語』という「物語」

神田龍身

……著

(かんだ・たつみ)学習院大学名誉教授、東京実業高等学校非常勤講師、早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期退学。
単著として、「物語文学」その解体(有精堂出版、一九九二年)、「偽装の言説(森話社、一九九九年)、「源氏物語
性の迷宮へ」(講談社選書メチエ、二〇〇一年)、「紀貫之」(ミネルヴァ書房、二〇〇九年)、「平安朝物語文学とは何か」
(ミネルヴァ書房、二〇二〇年)、「神田龍身初期論文集」(学習院大学研究叢書、二〇二二)などがある。

定価4,180円・本体3,800円
四六判上製カバー装・368頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-39045-9 C1095

書名	冊数
鎌倉幕府の文学論は成立可能か!? 真名本『曾我物語』テキスト論 神田龍身<著>	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

日本中世史論集

鎌倉時代から南北朝期、

さらには室町時代にいたる

日本中世の政治と文化の諸相を、

新史料を含む多様な史料を駆使し考究。

中世史を考えるうえで、の基盤を提示する。

長年、日本中世史研究を領導してきた

著者による待望の二冊！

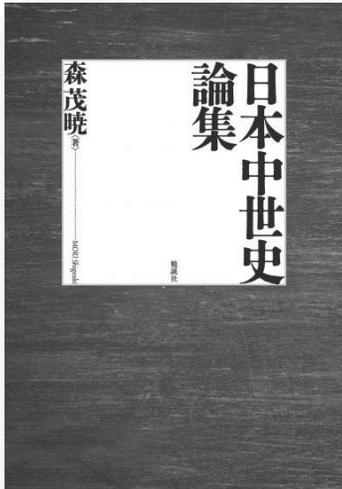
森茂暁 [著]

(もり・しげあき)

福岡大学名誉教授。

専門は中世日本の政治と文化。

主な著書に『建武政権 後醍醐天皇の時代』(教育社歴史新書、一九八〇年)、『講談社学術文庫(改訂版)、二〇二二年)、『南北朝期公武関係史の研究』(文献出版、一九八四年)、『思文閣出版(増訂版)、二〇〇八年)、『足利尊氏(角川選書、二〇一七年)、『足利義満(角川選書、二〇二三年)などがある。

定価 13,200円
(本体 12,000円)A5判上製カバー装・688頁
ISBN 978-4-585-32053-1 C3021
2024年9月刊行

[目次]

序言

第一部 鎌倉時代・建武新政期

第一章 文保の和談の経緯とその政治的背景

第二章 鎌倉末期・建武新政期の長門国分寺

第三章 建武政権下の長門国の知行国主について

第四章 建武政権と九州

付一 山科家関係文書の紹介
付二 「内蔵寮領等目録」・「御厨子所関係文書」

第二部 南北朝時代

第一章 法勝寺領美濃国船木荘只越郷をめぐる惣庶の対立と南北朝の争乱

第二章 足利尊氏発給文書の研究

第三章 室町將軍発給文書体系の成立

第四章 足利直義発給文書の研究

第五章 中院通冬とその時代

第六章 南北朝動乱に翻弄された一北朝公家

第七章 周防国分寺の中世文書―鎌倉時代・南北朝時代―

第八章 南北朝期の近衛家門について

第三部 室町時代

第一章 室町幕府管領斯波義将についての二三の論点

第二章 斯波義将の特異な文書―前管領が出した御判御教書―

第三章 赤松満政小考―足利義教政権の一特質―

第四章 室町前期の国家祈禱と幕府財政

第五章 伊勢貞国・赤松満政のかかわり

第六章 黒衣宰相がリードした室町政治―『満濟准后日記』―

第四部 周防大内氏の世界

第一章 周防大内氏の渡来伝承について

第二章 「鹿苑院西園下向記」を素材にして―

第三章 大内氏の興隆と祖先神話(講演録)

第四章 大内政弘と賀茂在宗との関係を中心に―

第五章 周防国水上山興隆寺修二月会についての一考察

第六章 修二月会頭役差定状を素材として―

第七章 大内政弘の精神世界

第八章 大内氏にかかる山口県外史料二題

付一

付二

あとがき

初出一覧

索引(人名/地名・荘園名/寺社名/史料名・書名/事項)

書名	部数
日本中世史論集	部
森茂暁 [著]	部
定価 13,200円(本体12,000円)	
A5判上製カバー装・688頁	
ISBN 978-4-585-32053-1 C3021	
2024年9月刊行	
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

身近でありながら詳しくは知らない料理の歴史を、多数の図版とともに楽しく紹介！



日々生きていくために欠かせない「食」。日本の歴史の中で、料理もまた時代により様々な変遷を遂げてきた。どのような料理があり、どのように食されていたのか。天皇、貴族、武士、庶民などの身分、また江戸、京都、地方などの地域によって、料理はどのように違うのか？食材にはどのようなものがあり、それらはどのように流通していたのか。料理はどう持ち運ばれ、どのように買われたのか。食べた人の感想はどうだったのか。

縄文時代から現代に至るまで、それぞれの時代の社会との関わりに注目し、通史的に料理の変遷が学べる、画期的な一冊。

五味文彦 著

(こみ・ふみひこ) 東京大学・放送大学名誉教授、足利学校座主。専門は日本史。著書に『院政期社会の研究』(山川出版社、一九八四年)、『文学で読む日本の歴史』全五巻(山川出版社、二〇二〇年)、『武士論』(講談社、二〇二二年)などがある。

料理の日本史

定価 2,640円・本体 2,400円
四六判並製・248頁
2024年8月刊行
ISBN978-4-585-32045-6 C0021

一 料理の誕生と変遷

縄文文化と食事
弥生・古墳時代の食文化
律令制下の料理/天皇の食事/貴族の食事
『新猿蓑記』の記す食材と合戦での食事
大臣大饗/中央と地方の食事の風景
年中行事の饗宴と平泉の宴会から見た和食

二 料理の広がり

武士と寺の料理
様々な絵巻に描かれた食事の様子
『二遍聖慈』の食事風景

三 料理の文化

料理の仕度と提言
様々な人の食事の有様
茶会と接待の料理
食材の流通と本膳料理・酒宴
料理と膳の実際
『七十一番職人歌合』の料理職人

四 料理文化の展開

本膳料理と食材の入手
石見益田氏の料理と本膳料理のその後
南蛮料理/懐石料理への道、益田の料理
精進料理と信長・秀吉の本膳料理
料理茶屋の出現と『醒睡笑』の食の世界

五 三都の料理

都の料理/江戸の料理/料理物語と普茶料理
江戸と大坂の経済/井原西鶴の描く長者
『人倫訓蒙図彙』の職人/商人の活動と幕府の饗応の膳
精進料理と祝宴の調理/江戸の料理店と卓袱料理
京都の料理屋 伊勢の料理/応挙の祝宴調理図と大坂の料理屋

六 料理の世界

魚市と魚屋/米屋と寿司屋
料理屋の広がり/屋台と振売り
『江戸名所図会』が描く茶店
京都の料理屋の広がり/郷土料理

七 近代の料理

文明開化と琉球料理/西洋料理
学校教育・家庭料理/ビールと洋食
中流と下層の人々の食事/郷土食
戦時下の食事/家庭料理の現状

<p>書名</p> <h1>料理の日本史</h1> <p>五味文彦〈著〉</p>	<p>冊数</p> <p>定価 2,640円・本体 2,400円 四六判並製・248頁 2024年8月刊行 ISBN978-4-585-32045-6 C0021</p> <p>冊</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

増補改訂版

本書は二〇一五年一〇月に刊行した『室町時代の将軍家と天皇家』の増補改訂版です。

室町時代の 将軍家と天皇家

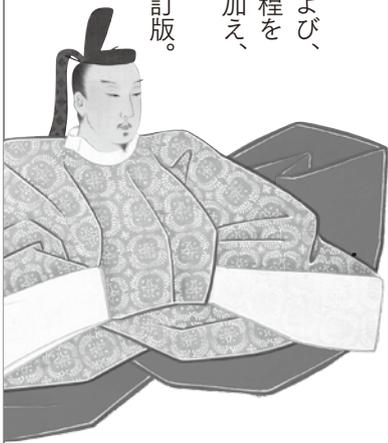


定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・560頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C3021

室町期における
中央政体の構造を捉え直し、
新たな時代像を描く

室町期の公武関係はいかにして成立、展開し、終焉にいたったのか。尊氏から義政までの足利家歴代将軍たちの朝廷儀礼における行動の分析。将軍家が「公家化」し、自らを北朝天皇家の「輔弼役(執事)」と位置づけ、強力な一体化を築き上げた実態を明らかにする。また、将軍家が天皇家をサポートし、その権威を保障する体制が室町時代の将軍家と天皇家の基本構造であることを提示する。武家の長(足利将軍家家長)と公家の長(北朝天皇家)との関係の展開と基本構造を検討した画期的成果。

公武関係をはじめ
義満・義教期における
足利将軍家の実態の具体像および、
足利家と天皇家の一体化の過程を
再検討した補論六本を新たに加え、
最新の研究成果をふまえて
加筆・修正した待望の増補改訂版。



石原比伊呂

〈著〉

(いしはら・ひいろ) 一九七六年六月一四日生まれ。聖心女子大学現代教養学部准教授。日本中世史(中世後期公武関係論)専攻。主な著書に『室町時代の将軍家と天皇家』(勉誠出版二〇一五年)、『足利将軍と室町幕府』時代が求めたリーダー像(戎光祥選書ソレイユ、戎光祥出版、二〇一八年)、『北朝の天皇』(室町幕府に翻弄された皇統の実像)(中公新書、二〇二〇年)、編著に『戦国・室町天皇列伝』(光明天皇)戎光祥出版、二〇二〇年)がある。

序章 研究史の整理と本書の視角

第一部 南北朝期の足利将軍家と北朝天皇家

第一章 足利尊氏・直義兄弟と北朝天皇家

第二章 義詮期における足利将軍家の変質

第三章 足利義満の対朝廷政策——「王権篡奪計画説」の再検討

第二部 室町幕府最盛期の足利将軍家と北朝天皇家

第四章 准摂関家としての足利将軍家——義持と大嘗会との関わりから

第五章 足利義持と後小松「王家」

補論一 「大嘗会仮名記」の作者に関する覚え書き

補論二 義満生前の足利義持

第六章 足利義教と義満・義持——朝廷行事における行動の分析から

第七章 足利義教と北朝天皇家

補論三 将軍空位期の室町幕府と公家社会——義円と「条々」

補論四 足利義教の初政

補論五 足利将軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型

第三部 将軍・天皇関係の本質と帰結

第八章 室町殿行幸に見る足利義教の位置づけ

第九章 貢馬御覧に見る室町時代の公武関係

第十章 義政期の将軍家と天皇家

終章 室町期公武関係の展開と構造——本書の結論

補論六 足利家と天皇家の一体化は、どのように進化したのか？

あとがき・増補改訂版あとがき・初出一覧・索引

書名

冊数

〔増補改訂版〕
室町時代の将軍家と天皇家
石原比伊呂〈著〉

定価 9,900円・本体9,000円
A5判並製カバー装・552頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32047-0 C9000

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

織田信長 文書の世界

永青文庫 珠玉の六〇通

新たに発見された信長文書を初収録！
六〇通の信長の手紙に加え、秀吉・藤孝などの文書も含めた
全七六点をフルカラー掲載。
詳細な解説・翻刻・現代語訳なども付した決定版！
最新の知見を反映した論説、
永青文庫の工芸品紹介なども多数掲載。
歴史ファン必読の一冊。



- I ● 永青文庫細川家の新発見文書と自筆文書
- II ● 「室町幕府」をどうする？——信長・藤孝・義昭
- III ● 一揆との戦と「長篠合戦」——信長の戦争と諸將
- IV ● 信長と藤孝、そして村重——奉仕と謀反のあいだ
- V ● 光秀の台頭から「本能寺の変」へ——信長・光秀・藤孝
- VI ● 未完の「天下」を引き継ぐ者——秀吉と細川家
- VII ● 肥後細川家と信長文書——熊本への収集

室町幕府の滅亡、一向一揆との死闘、長篠合戦、本能寺の変など、激動の時代を生きた信長。
信長から光秀、そして秀吉へと激しく移りゆく権力に、
ときには一日刻みて対応した細川藤孝（幽斎）・忠興・康之。
そしてついに「天下」づくりを支える地位を得た秀吉——
彼らは何を考え、どのように行動し、どう生きたのか。
永青文庫が所蔵する六〇通の信長文書および関連文書から、
一瞬一瞬の対応が迫られる波乱の時代の息遣いを読み解く。

「
新たに発見された
信長文書を初収録！
」

（細川）藤孝の果たした歴史的役割が改めてクローズアップされる貴重な一次史料

稲葉継陽（熊本大学永青文庫研究センター教授）

今秋（10月）
永青文庫で
公開予定
於東京都文京区



【執筆者】

- 稲葉継陽 ● 山田貴司 ● 伊藤千尋 ● 増田孝
- 水野嶺 ● 金子拓 ● 天野忠幸 ● 村井祐樹
- 林千寿 ● 福島克彦 ● 林晃弘 ● 有木芳隆
- 高島晶彦

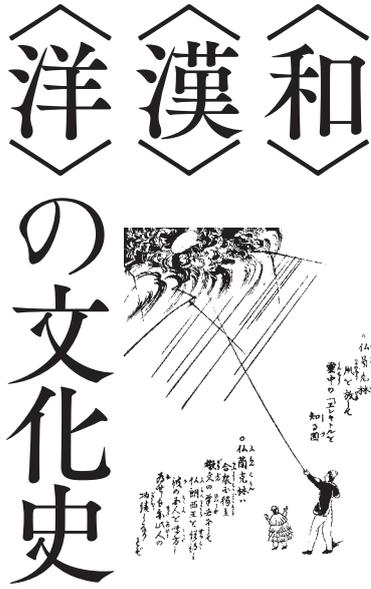
定価 3,080円・本体2,800円
B5判並製カバー装・272頁（フルカラー）
2024年9月刊行
ISBN978-4-585-32054-8 C1021

公益財団法人永青文庫／熊本大学 永青文庫研究センター 〈編〉

書名	冊数
織田信長文書の世界 ——永青文庫 珠玉の六〇通 公益財団法人永青文庫 熊本大学 永青文庫研究センター 〈編〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本人にとって 教養とは なにか

古来、人びとはより良い生き方を求め、より広い世界へとつながっていくために、さまざまな文化や知識と触れ合い、まじりあう中で社会と
その規範を作り上げてきた。
奈良時代以前から現代にいたるまで、日本人が「人としてどう生きるか」を模索してきた歴史を、
日本由来の文化である〈和〉、
中国由来の文化である〈漢〉、
そして欧米由来の文化である〈洋〉の
交錯の中から描き出す画期的な一冊。



序章

- 第一章 奈良時代以前——〈漢〉の撰取
- 第二章 平安時代——〈和〉の確立
 - 〈漢〉の展開 ●〈和〉の確立
- 第三章 鎌倉・室町時代——〈和〉〈漢〉の併立
 - 〈和〉の世界 ●〈漢〉の世界
- 第四章 安土桃山時代、江戸時代初期——〈和〉〈漢〉の復興
 - 〈和〉の世界 ●〈漢〉の世界
- 第五章 江戸時代——〈和〉〈漢〉の浸透
 - 〈和〉の世界 ●〈漢〉の世界 ●〈洋〉の世界
- 第六章 幕末、明治時代初期——〈和〉〈漢〉〈洋〉の変容
 - 〈和〉の近代的な展開 ●〈漢〉が形成する基盤 ●〈洋〉がもたらすもの
- 第七章 明治・大正時代、昭和時代前期——〈和〉〈漢〉〈洋〉の折衷
 - 〈和〉の世界 ●〈漢〉の世界 ●〈洋〉の世界
- 第八章 昭和時代後期——〈洋〉の圧倒
 - 〈和〉の世界 ●〈漢〉の世界 ●〈洋〉の世界
- 終章 日本人にとって教養とは何か？

あとがき

索引(人名・書名)

学習院大学文学部教授。主要著書に、『江戸詩歌史の構想』『古典詩歌入門』『古典注釈入門 歴史と技法』(以上、岩波書店)、『知つて古文の知らない魅力』(講談社)、『近世堂上歌壇の研究』『江戸古典学の論』(以上、汲古書院)、『林羅山年譜稿』(へりかん社)、『風流 江戸の蕎麦』(中央公論新社)、『日本評伝選 林羅山』(ミネルヴァ書房)、『日本漢詩への招待』(東京堂出版) など多数。

鈴木健一

〈著〉

予価 3,850円・本体3,500円

四六判並製カバー装・392頁

2024年10月刊行

ISBN978-4-585-39044-2 C1091

書名	冊数
日本人にとって教養とはなにか 〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史 鈴木健一〈著〉	予価 3,850円・本体3,500円 四六判並製カバー装・392頁 2024年10月刊行 ISBN978-4-585-39044-2 C1091
ご送付先ご住所 (通信欄)	

近世長崎渡来人文運史

言語接触と文化交流の諸相

近世日本において、東アジア各地より渡来した異国人たちは、さまざまな分野において多大な影響を与えた。通事(通訳)となった者、詩を通し日本の文人たちとかかわった者、政治的に活躍した者…。異国人たちはどのように日本で活躍し、どのような思想、文学作品を遺したのか。彼らがたどり着いた「長崎」という場を軸に、様々な資料を検証し、文化交流の諸相を明らかにする。

目次

前言

- 第一部 海峡渡航者と日本
 - 一 藤原惺窩筆談考——「達徳」への道
 - 二 朝鮮通信使と石川丈山——「日東の李白」考
 - 三 〈翻刻〉石山丈山自筆原翰「與朝鮮國權學士菊軒筆談書」
 - 四 雨森芳洲小考——唐話の師國思靖
 - 五 雨森芳洲の語学書

- 第二部 明清交代と長崎
 - 一 隠元——「万国の春」を心に
 - 二 鐵心道胖の文事——「聖福八景」詩原卷とその時代
 - 三 牛込忠左衛門の詩宴——「長崎八景」
 - 四 「彦山勝景詩集」の詩人・文人——八景・十二景の表象
- 第三部 渡来人の系譜
 - 一 近世渡来人の系譜——「訳司統譜」から
 - 二 唐通事・林道栄の生活と文事——雅俗訳通
 - 三 唐通事・劉宣義の生活と文事
 - 四 都へ出た唐通事——劉國南
 - 五 東京通詞魏氏の家系——魏五左衛門龍山を中心に
 - 六 唐話会と江戸文学
 - 七 「唐通事由来書考」

- 第四部 長崎聖堂とその周辺
 - 一 向井元升事略——入洛前後
 - 二 向井元升著述考——東西文化の接触
 - 三 盧氏の系譜
 - 四 高玄岱の文事——宝永・正徳期
 - 五 新出・高玄岱『鐘山遊記』について
 - 六 高玄岱自筆卷子本「心田菴記」について
 - 七 大潮元皓の生涯
 - 八 「瓊浦遊草」の世界——大潮元皓の長崎滞在
 - 九 高階陽谷——その風貌と逸詩
- あとがき・初出一覧

若木太一・著



一九四二年生まれ。長崎大学名誉教授。著書に『長崎聖堂祭酒日記』(共編著、関西大学東西学術研究所、二〇一〇年)、『新長崎市史』第二巻近世編(共著、長崎市、二〇一二年)、『長崎・東西文化交流史の舞臺』(共編著、勉誠出版、二〇一三年)、『長崎先民伝注解』(近世長崎の文苑と学芸)(共編著、勉誠出版、二〇一六年)などがある。

定価 14,300円・本体13,000円
A5判上製カバー装・704頁
2024年5月刊行
ISBN978-4-585-32044-9 C3021



書名	著者	定価	冊数
近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一(著)	定価 14,300円・本体13,000円 A5判上製カバー装・704頁予定 2024年5月刊行 ISBN978-4-585-32044-9 C3021	冊
ご送付先ご住所(通信欄)			

本書は『図像学入門——疑問符で読む日本美術』
(2015年11月刊行)の増補改訂版です。



増補改訂版

図像学入門

疑問符で読む日本美術

観音にはひげがある？

なぜ絵巻は右から左へみるの？

写生画が写真ではない？

絵画や仏像などのさまざまな疑問・謎を

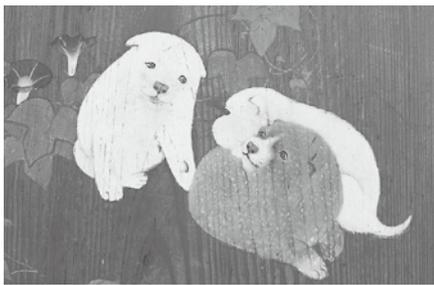
図像解釈学(イコノロジー)から探り、
日本美術の新しい楽しみ方を提案する。

大日如来、幽霊の絵、麗子像など
8つのトピックを追加し、増補改訂版として刊行。

もくじ?

- 第1章 釈迦の生涯——仏像の基本
 - 第2章 仏像の種類——4つのタイプ
 - 第3章 曼荼羅——密教世界の地図
 - 第4章 六道輪廻と浄土——人は死んだらどこへゆく？
 - 第5章 神々のすがた
 - 第6章 人のかたち——肖像と似会にせえ
 - 第7章 絵巻物——物語を絵にする
 - 第8章 山水画と花鳥画——神仏でも人でもないもの
 - 第9章 浮世絵
 - 第10章 西洋絵画と日本
- ついでのはなし

山本陽子 著



(やまもと・ようこ) 1955年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科(美術史)博士課程後期単位取得。博士(文学)。明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』(中央公論美術出版、2006年)、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』(勉誠出版、2012年)、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(勉誠出版、2015年)、『はじめての日本美術史』(山川出版社、2018年)、『物語る仏教絵画——童子・死・聖地』(勉誠社、2023年)など。

定価2,640円・本体2,400円
四六判並製カバー装・272頁
2024年4月刊行
ISBN978-4-585-37014-7 C0071

書名	冊数
増補改訂版 図像学入門 疑問符で読む日本美術 山本陽子<著>	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 Ⅱ編

帝鑑図

と

ていかんずと
ていかんずせつ

帝鑑図説

日本における

勸戒画の受容

古来、中国および東アジアでは、為政者たるものが如何にあるべきか、を説くために、絵画が利用されてきた。そこには善を勧め、悪を戒める「勸戒」の内容が盛り込まれ、帝の鑑となるものとして「帝鑑図」と称された。これらの絵画は、屏風や障壁画など、室礼や儀礼空間の荘厳として、また、挿絵として物語と共に『帝鑑図説』として版本化され、東アジアの文化の基底として大きな影響を与えてきた。本書では、日本における帝鑑図・帝鑑図説の諸作品を美術史・文学研究の第一線の視点より、多角的に考察。豊富な図版資料また国内作品の網羅的リストも具備した、東アジア文化史研究における必備の一冊！

●編者プロフィール
小助川元太 ぐすけがわ・がんだ 愛媛大学教育学部教授。専門は中世日本文学。薬師寺君子 やくしじ・きみこ 東京文化財研究所客員研究員。専門は日本近世美術史。野田麻美 のだ・あさみ 神戸大学大学院人文学部研究科講師。専門は日本美術史(近世絵画)。水野裕史 みずの・ゆうじ 筑波大学芸術系助教。専門は日本美術史。

序文……小助川元太

資料編

・カラー口絵

- 狩野山楽「帝鑑図押絵貼屏風」(東京国立博物館)
- 伝狩野山楽「帝鑑図押絵貼屏風」(永青文庫)
- 狩野探幽他「帝鑑図押絵貼屏風」(東京国立博物館)
- 狩野甚丞「帝鑑図屏風」(個人蔵)
- 狩野宗眼重信「帝鑑図・咸陽宮図屏風」(静岡県立美術館)
- 「帝鑑図押絵貼屏風」(九州国立博物館)
- 名古屋城上洛障壁画(名古屋)
- モノクロ資料
『帝鑑図説』慶長版並びに万暦版全挿図及び解説……小助川元太
『帝鑑図説』慶長版並びに寛永版翻刻……小助川元太
『中国帝王の記憶すべき事蹟』全挿図及び解説……井川義次

解題編

- 帝鑑図押絵貼屏風 狩野山楽 東京国立博物館……野田麻美
- 帝鑑図屏風 永青文庫(熊本県立美術館寄託)……金子岳史
- 帝鑑図屏風 狩野探幽他 東京国立博物館……水野裕史
- 帝鑑図屏風 狩野甚丞 個人蔵……野田麻美
- 帝鑑図・咸陽宮図屏風 狩野宗眼重信 静岡県立美術館……野田麻美
- 帝鑑図屏風 九州国立博物館……鷲頭桂
- 帝鑑図(名古屋城本丸御殿) 名古屋城総合事務所……朝日美砂子
- 帝鑑図説……小助川元太

論考編

- 帝鑑図
総論 帝鑑図……薬師寺君子
狩野派の帝鑑図再考……野田麻美
御殿空間における名古屋城本丸御殿上洛殿の帝鑑図障壁画……朝日美砂子
帝鑑図と権力……松島仁
帝鑑図と儒教……水野裕史
「コラム」帝鑑図の画料……水野裕史
「コラム」帝鑑評……入口敦志

帝鑑図説

- 総論 帝鑑図説……小助川元太
万暦帝、張居正と「帝鑑図説」……林麗江(尾川明穂訳)
- 豊田秀頼と「帝鑑図説」……福田千鶴
- 『帝鑑図説』の出版文化——通説と近年の研究傾向を問い直すヨーロッパにおける「帝鑑図説」——フランス革命勃発の起爆剤?……井川義次

附録

- 帝鑑図事例一覧
『帝鑑図説』作例二覧(国内中心・一部海外機関)
主要参考文献
あとがき……水野裕史
執筆者紹介



帝鑑図押絵貼屏風
九州国立博物館

定価 16,500円・本体15,000円
A4判上製カバー装・400頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-37017-8 C3071

書名	冊数
帝鑑図と帝鑑図説——日本における勸戒画の受容 小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史(著)	冊

定価 16,500円・本体15,000円
A4判上製カバー装・400頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-37017-8 C3071

ご送付先ご住所(通信欄)

蘇州版画

東アジア印刷芸術の革新と東西交流

そしゅうはんが



芸術文化の古い歴史を持ち、経済的繁栄をきわめていた17、18世紀の中国・蘇州市に生まれた「蘇州版画」。吉祥的な画題のみならず、教訓、歴史故事、名所旧跡、通俗文学や詩の絵解きなどさまざまな題材をとり上げ、当時の都市のにぎわい、市民の暮らしぶりを大きな画面に描き伝える貴重な視覚資料でもある。

技法も多彩で、濃淡の墨摺にはじまり、複色色の色刷り、さらに手彩色によって色数を増やし、また、船載された西洋銅版画などの陰影法や透視図法も積極的に応用する。これらの蘇州版画は、江戸時代には長崎に大量にもたらされ、ヨーロッパにも輸出されて宮殿の室内を飾り、美術工芸品への応用が注目されてきた。

近年新たな発見や蒐集が進み、内外で学際的な関心の対象として注目を集めている蘇州版画。

中国版画史を突出して彩るその歴史と世界的広がり、国内外の第一線の論者が多数の図版を交えて明らかにする貴重な一書。

【目次】

カラー口絵

はじめに◎小林宏光

I 蘇州版画の歴史と展開

北宋時代の一枚摺と版画による複製のはじまり◎小林宏光

十八世紀蘇州版画にみる国際性◎青木隆幸

蘇州と杭州、都市図の展開から見た蘇州版画◎板倉聖哲

II 物語と蘇州版画

蘇州版画の素材に関する科学的調査報告◎半田昌規

物語と蘇州版画 ◎大木康

III ヨーロッパに収蔵される蘇州版画

文化の一形態としての技法——蘇州版画に「西洋を創る」◎頼毓芝(翻訳：田中伝)

十八世紀一枚摺版画の図像(花器、書斎道具、花果)の展開と、その起源となる絵画 ◎アン・フアラール(翻訳：都甲さやか)

西洋宮殿と蘇州版画◎ルーシー・オリボバ(翻訳：中塚亮)

レイカム(Leykam Zimmer)の間の中国版画◎李嘯非(翻訳：張天石)

十八世紀欧州にわたった「泰西の筆法に倣った」蘇州版画について◎王小明(翻訳：中塚亮)

編集後記◎青木隆幸

アジア遊学
295定価 3,520円
(本体 3,200円)A5判並製カバー装
320頁(うちカラー32頁)
ISBN 978-4-585-32541-3 C1371
2024年9月刊行

書名	部数
蘇州版画 【アジア遊学295】 青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 [編]	部
定価3,520円(税込)・本体3,200円 A5判並製カバー装 320頁(うちカラー32頁) ISBN978-4-585-32541-3 C1371 2024年9月刊行	部
ご送付先(氏名・住所・電話番号)	

和紙を科学する

製紙技術・ 繊維分析・ 文化財修復

(おおかわ・あきのり)一九四二年生まれ。和紙研究家。専門は製紙技術。論文に「製紙に関する古代技術の研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(増田勝彦と共著「保存科学」20、一九八一年)、「同」22、一九八三年、「同」24、一九八五年)。「古代の造紙技術について」(延世大学校国文学研究院「東方學志」106、一九九九年)、「浮世絵の紙」(日本分析科学会「ふんせき」3、二〇〇三年)などがある。

大川昭典 著

カラー口絵

緒言◎湯山賢一(東大寺ミュージアム館長)

第一部 日本古代の製紙技術

古代の造紙技術について
製紙に関する古代技術の研究◎大川昭典・増田勝彦
製紙に関する古代技術の研究(Ⅱ)——打紙に関する研究◎増田勝彦・大川昭典
製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ)——苧麻布・楮の白搗による叩解◎大川昭典・増田勝彦
「特別寄稿」正倉院宝物の紙調査成果における大川昭典氏の功績◎増田勝彦

第二部 和紙の製法と材料

料紙の構造と組成について
和紙つくりについて
楮・雁皮配合紙の手漉き試験
材料からみた和紙の歴史的变化
「コラム」土佐七色紙の復元◎有吉正明

第三部 料紙調査の技法と分析

文書紙の繊維組成及び填料の観察
繊維形態及びC染色液による呈色
浮世絵の紙——時を隔てた二作品の用紙を分析して
箔打紙比較試験

「対談」料紙研究の視点◎大川昭典×湯山賢一

あとがき・初出一覧

図書館・文書館・文化財関係者、必備の書！

古文書・古典籍・絵画など、日本には「紙」の文化財が数多く残されている。これらの料紙には、どのような材料が使用され、どのような漉き方、加工が施されたのか。また、色や大きさを選定する背景には、どのような価値観があったのか——紙はその当時の人びとの心性や文化体系をいまに伝える貴重な史料である。それらの文化財を守り、伝えていくためには、
基盤となる紙の調査・分析を欠くことができない。
四十数年に及び、先駆的に紙の文化財の調査・科学的分析に関わり、料紙の材料や構造・製法の研究において、数多くの実績を残し、修理用紙の作成、料紙の復元などにも尽力してきた著者の知見を初めて集成。現在、大きな展開を見せている「紙」の研究の基盤と歩みを提示する画期的な一冊。



美濃紙の電子顕微鏡写真

定価4,620円・本体4,200円
B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁)
2024年6月刊行
ISBN978-4-585-35002-6 C1058

書名	冊数
和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復 大川昭典〈著〉	冊
定価4,620円・本体4,200円 B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁) 2024年6月刊行 ISBN978-4-585-35002-6 C1058	
ご送付先ご住所(通信欄)	

国文学研究資料館様 主催講習会
受講者のみなさま限定!

定価3,380円(送料300円込)のところ、

特別割引価格 **2,800**円(税込・送料300円込)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〔編〕

本 かたちと文化

古典籍・近代文献の見方・楽しみ方

写本、
版本、
明治期に
作られた書籍

日本の古い本には色々な形があり、
それを構成する部品、
作られた時代も様式も様々である。

これらの「本」には何が書かれているのか。
そもそも「本」のどこを

どのように見ればよいのか。
くずし字はどう読めばよい?

捺されているハンコは何を意味しているのか?
表紙の模様には

どのような意味が隠されているのか?

一流の研究者たちが
丁寧にわかりやすく解説する。

多数の図版とともに楽しむ、
充実の古典籍・近代文献の入門書!

電子書籍
(フルカラー版)
同時刊行!

本書ご購入の方には、
電子書籍を半額にて
販売いたします。
ご購入方法の詳細は、
本書挟み込みチラシを
ご覧ください。

Contents

- 刊行に寄せて……渡部泰明
はじめに——「本」を学び、楽しむために……海野圭介
- 講義 1 ◎ はじめての古典籍……神作研一
「コラム」亀甲パレン「」のこと……神作研一
- 講義 2 ◎ くずし字……昔の人びとの文字をどう読むか……桑汐里
- 講義 3 ◎ 写本……奥書・識語から本の来歴と素性を知る……海野圭介
「コラム」書物を切る——古筆切という資料……海野圭介
- 講義 4 ◎ 版本……刊記・奥付から印刷文化を探る……木越俊介
「コラム」国書データベースで複数の画像を比較するには……木越俊介
「コラム」『彩画職人部類』再刻』を検証する……木越俊介
- 講義 5 ◎ 装訂と料紙……本の「かたち」から何を読みとるか……落合博志
「コラム」写本を模倣する古活字版……落合博志
「コラム」表記は装訂です——付、新出化権蔵二種……神作研一
- 講義 6 ◎ 表紙文様……本を彩る意匠の世界……齋藤真麻理
「コラム」表紙ウラの楽しみ……齋藤真麻理
「コラム」文様と奈良絵本……齋藤真麻理
- 講義 7 ◎ 印……本に捺されたハンコは何を伝えているのか……松永瑠成
「コラム」史料としての資本印……松永瑠成
「コラム」印主の調べ方……松永瑠成
- 講義 8 ◎ 江戸の出版文化……古活字版を中心に……入口敦志
「コラム」日本出版史の謎——入口敦志
- 講義 9 ◎ 近代本の世界——近代資料の作り方・〈残し方〉・〈読まれ方〉……多田蔵人
「コラム」ナポレオンの妻の物語……多田蔵人
「コラム」『普通の本』の大切さ……多田蔵人
「コラム」蔵書形成の意義——国文研のコレクション紹介を兼ねて……木越俊介・齋藤真麻理
- 参考文献リスト——工具書を中心に
国文研を利用しよう



書名	冊数
本 かたちと文化 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館〔編〕	冊
特別割引価格 2,800 円(税込・送料300円込)	
定価 3,080 円(本体2,800円) A5判並製カバー装・288頁 2024年2月刊行 ISBN978-4-585-30011-3 C1000	
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、勉誠社宛にお申込みください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025 MAIL.info@bensei.jp WEBSITE.http://bensei.jp/

書物学 25

古典籍の 文献学

鶴見大学図書館の蒐書を巡る

『伊勢物語』、『源氏物語』などの物語、歌集・歌学書、古筆切、仏書、漢籍、洋学資料…。鶴見大学図書館では、文献資料に基づく実証的研究を伝統とし、その時々々の教職員が書物に対する深い関心と集書への熱意によって、徐々に貴重な古典籍が蒐集されてきた。そのコレクションは全国でも屈指の収蔵点数を誇っており、まさに「宝庫」と呼ぶに相応しい。鶴見大学図書館が七十年の長きにわたり、博搜と収蔵に取り組み続け、守り伝えてきた宮為とその魅力をあますところなく紹介する。

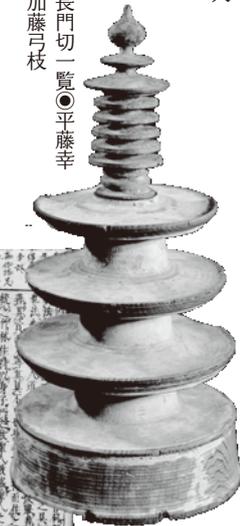
鶴見大学図書館の貴重書——これまでとこれから ●伊倉史人

第一部……物語と歌書

- 伊勢物語 ●久保木秀夫
源氏物語——河内本または別本を含む写本 ●田口暢之
『平家物語』長門切——鶴見大学図書館断簡を中心に 付長門切一覽 ●平藤幸
改竄された仮名遣い——契沖筆、古今和歌集」とその模刻 ●加藤弓枝
新古今和歌集——鎌倉期写の残欠本 ●田口暢之
十三代集とその周辺——「写字白田蔵本」と尊円筆、風雅和歌集 ●石澤一志
御室撰歌合と千五百番歌合 ●田口暢之
鶴見大学図書館蔵伝後京極良経筆和漢朗詠集について ●山本まり子
古筆切・古筆手鑑 ●久保木秀夫
無訓の金沢文庫切 ●新沢典子
院政期歌学書の善本——『俊頼髓脳』を中心に ●伊倉史人
新収の古今注——伝轉法輪公教筆、古今和歌集注の紹介 ●河田翔子

第二部……仏書・漢籍・洋学・アーカイブ

- 鶴見大学図書館所蔵品をとおしてみる本邦における仏典の書写・請求・印刷 ●宮崎展昌
聖教を披き、「宝蔵」を思い描く ●小島裕子
禅籍ではじまる日本出版文化 ●万波寿子
仏教文化研究所——總持寺・瑠山禪師の探求と大遠忌関連事業 ●尾崎正善
鶴見大学所蔵の中国漢籍——三槐堂王乾字刊、烏臺正詒凌雲詩経 ●金文京
開国の足音——オールコック、初学者用日本文法綱要 ●遠藤佳那子
でんしかししょう！ ●大矢一志



定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000

<p>書名 [書物学 25] 古典籍の文献学 鶴見大学図書館の蒐書を巡る 編集部(編)</p>	<p>冊数 冊</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000